

令和3年度第2回秩父市総合教育会議議事録

| | |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 期 日 | 令和3年10月18日（月曜日） |
| 時間・場所 | 15時～16時55分・本庁舎3階庁議室 |
| 出席者 | <p>北堀市長、前野教育長、高野教育委員、松本教育委員、山中教育委員、大島教育委員</p> <p>市長室長、市長室専門員兼地域政策課長、市長室参与、地域政策課主査、教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長2人、教育委員会専門員兼教育総務課長、教育研究所長</p> <p>傍聴者なし</p> |
| 会議内容 | <p>○市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月に入り緊急事態宣言は明けたが、新型コロナウイルスの感染拡大は、まだまだ油断できない状況である。皆様もワクチンを接種したから安心ということではなく、様々な場面で今までどおりの感染防止対策を徹底していただきたい。 ・また、経済活動についてもできるだけ平常時に戻れるように市として取り組んでいきたい。 ・ワクチン接種率は、1回目の接種率が8割となり、来月には2回目の接種率もおそらく8割になると思われる。 ・「美しい日本の言葉」があったが、今の子ども達には基本をきちんと学んでほしいと考えている。また、計算は色々なツールを使うことによって、入力すれば答えが出てしまう。そのため、過程が議論されずに、その過程が理解できない子ども達が出てくるのではないか。 ・秩父は、秩父らしく基本に立ち返って子ども達の教育を見直していただけたらと思う。 ・伝統文化は、幼児教育、小学校低学年に学んでいただき、身体で体験をしていただき成長し、世界各国に行ったときに自分のふるさとを披露できたら良い。 ・考えることが大事であるため、「読み書きそろばん」を復活していただけないかと教育長にお願いした。 ・本日はよろしく願いいたします。 <p>○教育長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の新型コロナウイルス感染症については、秩父市内のピークは8月であった。陽性者数は、8月は157名のうち小中学生が6名、9月は40名のうち小中学生4名、10月は4名のうち小中学生1名だった。4月以降の累計は小中学生は17名。陽性者が確認された8 |

校の学校では、感染拡大は生じておらず、児童生徒は元気に過ごしている。

- ・10月は緊急事態宣言が解除となり、今までできなかった校外学習が多くの学校の中でできるようになってきて、修学旅行も行われる学校もある。
- ・本日はぜひ活発な意見交換をよろしくお願ひしたい。

○議事

(1) 初等教育で必要な基礎的学習について

資料1について教育委員会事務局教育研究所飛川所長より説明

(市長)

- ・ツールを利用するだけではなく読解力が大事。なぜこうなるのかを考えてほしい。子ども達は、自分が好きなことには取り組む。勉強ができないのではなく、そのものに対しての集中力を養っていければ勉強はできる。集中力と持続力と記憶力の3つをある程度養うことができれば勉強はできてくる。
- ・興味を持たせることが大事だが、幼児教育の小さい時から教え込んでいなければいけない。子どもは素直であるため、馴染んでいくと思う。そのため、幼児からの環境が非常に大事だと思っている。
- ・勉強とは違うが、子どもには我慢を覚えさせることが大事だと思う。「3つ子の魂」が大事と先人は良いことを言った。
- ・今、テレビをつけると、信じられないような犯罪が起きており、常識では考えられないような社会になっている。そういったことも踏まえて議論していただければと思う。

(高野委員)

- ・まず市長の話聞いて、「美しい日本の言葉」という言葉を久々に聞き、はっとした。
- ・私も「読み書きそろばん」という言葉は非常に大事だと思っている。昨年度、教育大綱の見直しを行った際にも、基本方針の第一にそれを持ってきている。
- ・「読む」は読解力、「書く」は自分の気持ちを表現する力だと解釈している。「そろばん」の計算は数字をきちっと把握して、論理的なものになっているものと思っている。本当に教育の基礎は、「読み書きそろばん」に尽きると思っている。

(松本委員)

- ・「読み書きそろばん」は、基礎の基礎になっている。これは、色々なことを学ぶための基になっているものだと思っている。

- ・テーマをもらった際に少し調べたが、子ども達には、言語能力、情報活用能力、問題発見能力が必要である。要するに人と喋れたり、人の気持ちがわかるように努力したりということが大事である。また、情報を個人自身がどれだけ自分のものにできているかがとても大事だと思っている。コロナの関係でも偽情報が非常に多い。
- ・作家の伊集院静は、「子どもの教育で大切なのは、自分以外の痛みがわかるようになれば教育の8割はこれで終わり」と言っている。相手の気持ちがわかるようになってくれば、いじめがかなり減るのではないか。
- ・また、福沢諭吉が「学問のすゝめ」の中で、普通の生活に役に立つ学問が大切だと言っている。例えば手紙の書き方、計算や重さの測り方、歴史・宇宙の仕組み、人との関わり方、社会での振る舞いなど、このようなことが大切だと言っている。
- ・学校では、「読み書きそろばん」が基礎・基本で、その上に色々な思いや情報を丁寧に子ども達に教えていく必要がある。しかし、上からの押し付けではダメなので、そのあたりが難しいと感じている。

(山中委員)

- ・小学校の中で大事なことは何かと考えたときに、多くのことを学ぶことだと感じている。私自身は、保育士として軽度の発達障害を抱えている放課後デイサービスの仕事をやっているため、色々考えることがある。
- ・読解力については3つの話をしたい。
- ・1つは読書の大切さを伝えたい。学校の図書室が毎日開いている学校もあれば、開いていないところもあると聞いている。子ども達がすぐに読める環境があれば嬉しい。図書室が毎日開くためには、図書支援員さんがいる環境づくりをやっていただきたい。支援員が良い本を紹介してくれれば、子ども達が興味を沸くことにつながると思う。
- ・2つ目は家庭学習の大切さ。自主学習も小さい頃からやっていき、先生に教えてもらいながら、習慣化して大きくなれば自分でやっていく力がついていけば良いと思う。
- ・3つ目は先生と子どもとの関わりである。信頼性の構築が初等教育の中では非常に大事だと思っている。先生達も業務が多忙になっているが、先生達が少しでも子どもと触れ合える時間を多く取れるよう、そのサポートをしてもらえるような学習支援員の人材確保を考えていけたらと思っている。

(大島委員)

- ・私も小さい頃にそろばんをやっていた。街中にもたくさんそろばん教

室があり関われる機会があった。できるようになるとシールがもらえたり、そのためには我慢して集中して継続してやり、それを持続してやらなければいけない。市長の話の要素が、当時のそろばん教室にはあった。

- ・最近、全世界的に企業がSDGsを言っている。その4番目に「質の高い教育」がある。教育についても2030年までに新しい教育のあり方を示さなければならないかもしれない。
- ・先日、尾木直樹先生の講演を1時間ほど聞いた。話の中で人間力、共感性が非常に大事だと感じた。人間力を身に付けるためには、有酸素運動、ピアノやゼロの感覚が大事。例えばキャンプをして暗闇の中に身を置くことで脳の活性化が起こる。学校だけではなく家庭での協力も必要である。家庭内においても共感性は大事であるため、今一度子ども達に寄り添っていく必要がある。

(教育長)

- ・小学校1～6年間をみても発達段階で差が大きく、6年間での子どもに与える影響は非常に大きい。
- ・学校では学習指導要領が10年に1度のペースで改訂され、今年度は小学校が2年目、中学校が1年目で今後同じ要領で進んでいく。以前から言われていることは、知識、理解、語彙力がいつの時代でも言われている。最近課題となっていることに、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力が欠けていると言われている。原因は、地域社会での関わりが少なくなってきたことにある。
- ・また、コンピューターやスマホ等の普及により、最近の子ども達は、友達や人と話をする機会が減っている。これから時代が変化していく中でも、人としてなくてはならないこと、人の気持ちがわかることは大事である。今回の学習指導要領改訂によって、道徳が教科書を使う教育に変わった。心の教育はいつの時代も大切であると思う。
- ・また、幼児段階から必要なのは語彙力が必要。言葉を覚える。そしてそれを知識として身に付けていく。どうしてだろう？なんだろう？と思う感覚の育成が、今後さらに必要になってくる。そのようなことを相手に伝えるコミュニケーション力が必要だが、やはり家庭教育での善悪での判断は、しっかり教えてもらわなければならないと思っている。
- ・たくさんのお話を子ども達に経験させ、心で感じるものを相手に伝える。相手が言っていることをしっかり自分で受け止め、それを考え判断できる学習が必要だと思う。

(高野委員)

- ・学校に求められていることが非常に多いので、先生が大変になってしまうのが心配。学校の先生が少しでも子ども達に接する機会を増やすために、学校現場をお手伝いできる方がいたら良いと感じる。

(山中委員)

- ・他者の痛みがわかるようにするためには、創造する力を養うことはすごく大事なことだと思う。それには読書の大切さがある。9月5日のNHKニュースで、家庭の中に本がどれくらいあるかによって、子ども達のテストの結果が違っていると報じていた。家庭によって本が買えるかどうかの問題も出てくるため、誰でも本に触れられる場である学校の図書室は大事なことだと思っている。

(北堀市長)

- ・学校教育は、学校の現場だけではなく、基本的には親が変わらなければ、子どもは変わらない。そのためには何段階かあり、親学もやっていかなければいけないと以前から思っている。
- ・まず、親学をやって、学校とPTAの人達がどのようにして共通の問題意識を持てるかが非常に大事だと思っている。基礎的人間性を育てていくためには、やはり家庭が大事。
- ・先日、市長会で渋沢栄一の玄孫の健さんの「論語と算盤」の話聞いた。経済だけではなく、人間としていかに生きていくのかを唱えてきたとのこと。人間の本質の部分が一番大事だと思っている。
- ・私は、マニフェストでランドセルの無償配布をやることに決めた。親御さんにアンケート調査を行ったところ、来年度入学する児童の6割がすでに購入や予約済であった。そのため、来年度は、入学祝い金として5万円を給付する。
- ・なぜランドセルかというかと、社会的に恵まれている家庭と経済的に困っている家庭がいる。ランドセルを買いたくても買えない家庭がいる。義務教育の中で格差の環境を植え付けたくない。そのため、同じ物を平等に持たせてあげたい。ただの無償配布というわけではなく、格差社会を小学校の中に持ち込むのは良くない考えるからである。令和5年から色の選別を可能として、ランドセルを配布したいと思っている。

(松本委員)

- ・私は自由だと思う。昔から裕福な家庭と困窮家庭があった。市長の考えはよくわかるが、決まり事を小学校の子ども達の生活に持ち込まない方が良いと思う。

(山中委員)

- ・市のPTAの環境問題の係になった際に、ランドセルの重さを議論し

た。そもそもランドセルが重く、身体への影響が課題になったことがある。小学校の時には、自由に選べることはとても大事なことだと思う。素材を一律にするのも有りだと思うが、そこにたどり着くまでには、細かい議論をした方が良く思う。

(高野委員)

- ・ マニフェストに掲げたことはすべてやらなくては行けないのか。

(市長)

- ・ 基本的には市民との約束なのでやる。
- ・ 市民の3分の1の人達が年収200万円以下で生活している。

(松本委員)

- ・ 年金暮らしの人もそうではないかと思う。

(市長)

- ・ 確かにそうなのだが、一番問題なのは働きたくても働けない人達がいること。生活が改善できない人、障害があり働けない人もいる。シングルマザーの人達もいる。いくら頑張っても這い上がってこれない人達もいるということを理解してほしい。
- ・ 秩父1市4町を含めて新生児の出生数が500人を切っている。今後は人口減少が目減りしていくのがわかっている。その現状も踏まえ総合的に判断していく。

(高野委員)

- ・ ランドセル無償化を実行に移す場合には、PTAの声をよく聞いていただきたい。

(2) 伝統文化の学び

資料1について教育委員会事務局教育研究所飛川所長より説明

(市長)

- ・ 秩父で生まれて秩父で育ち、秩父の文化を受け継いでもらい、学校教育の中で体験してほしい。自分のふるさとの体験として学び取ってもらって成長してほしい。

(大島委員)

- ・ 私が、花の木小学校時代には、秩父歌舞伎をやっていなかったが、今は屋台芝居などで披露する機会があるのは良いこと。しかし、最近の子ども達は、塾やスポーツなどいろいろとやっていて忙しいため、伝統文化を積極的に取り組んでいくのは非常に難しい。
- ・ しかし、大人が楽しくやっている姿を見て、子ども達もやってみたいと思う地盤が花の木小学校にはある。秩父の特色を出す良い取組なの

で、積極的にやっていただきたいし、応援をしていきたい。

(山中委員)

- ・秩父は、お祭りが365日毎日どこかであるというようにそれぞれの地域に根ざした伝統文化がある。その中で、各学校が伝統文化に触れることは非常に大事だと思っている。
- ・私の地元でも屋台ばやしや串人形を披露する場があった。学校で伝統文化を学ばせるとなると、地域の方達との連携がとても大事になってくる。秩父市にはコミュニティスクールがあるので、その場を活用して連携を図りつつ、そのような場面を続けていけるように議論してほしい。

(松本委員)

- ・山中委員の話にもあったが、秩父はすごくお祭りが多い地域である。私は吉田地域に住んでいるが、これからの伝統文化を継続していくためには、非常に心配事が多い。それは、若者がいない。そして子ども達がいらないということ。
- ・上吉田地域には、塚越の花まつり、大波見のどんど焼き、小川の百八灯などの子ども達のお祭りがあるが、塚越の花まつりには地元小学生が一人だけである。
- ・吉田中では、中学2年生が井上の貴布祢神楽を、中学3年生が龍勢づくりをやっている。地域の人や保存会の人達が学校と打ち合わせをした上で進めている。教える側の間人も継続して参加してもらうことが非常に大切だと思う。なぜ龍勢保存会の人達がやっているかということ、大人になった時に龍勢に携わってほしいとの思いがあるからである。

(高野委員)

- ・祭りがあるから地域があるということで、吉田地域は非常に良い取組だと思う。
- ・私の下郷地域は西小学校が屋台ばやしをやっていて、子ども達が自主的に参加して地域を保っている状況である。
- ・秩父市学校教育推進プランの「秩父ならではの特色ある教育活動の推進」ということで、教育委員会をあげて取り組んでいるのは全国では他にはないのではないかと思う。昨年度全国の教育委員の方々とリモート会議の場で話し合う機会があったが、地域との連携というテーマであった。秩父には「伝統文化に親しむ日」という条例を作ってもらって良かったと思っている。また、「秩父市子ども伝統芸能伝道師」制度は素晴らしいことであるが、1市4町で出生数が500人を切っているのが問題。

(教育長)

- ・さきほどから話に上がっている、吉田小中学校、荒川中学校、西小学校、影森中学校の獅子舞など、大きなお祭りに対しては地域の方々のご協力によって、子ども達に少しずつでも伝承されている。ただ、すべての学校には行き渡っていない。規模や人数にも制限がある。
- ・松本委員からも話が出たが、学校と調整するコーディネーターがいて協力者を増やしていく取組が普通にできている地域は良いが、新たにスタートすると苦労があり、進まないのではないか。
- ・コロナ禍の中で子どもたちも学習や発表の機会が減ってしまったのは非常にもったいない。市長がよく言うボランティアだと途中で途絶えてしまうが、手当支給のための予算化は難しい面がある。

(市長)

- ・たくさんの伝統文化を一つでも二つでも子ども達が経験して、自分の将来の人生の糧にして身に付けてほしい。
- ・ボランティアはなかなか続かないので、大きな金額は出せないが、多少なりとも報酬を支払った方が良いと思っている。自分達は対価をいただいているのに、皆さんにボランティアでやってくださいと言うのは、常々矛盾があると思っていた。それほど大きな金額は出せないが、気持ち程度でもなんとかできるようにしていきたい。

○閉会

以上